

大須周辺寺巡りとランチ

1 上前津駅西改札

2 オオナオネ コ ジンジャ
大直禰子神社



おから猫の民話がある神社です おからねこには謎が多い。江戸後期の地誌「尾張名陽図会(ずえ)」にはご神体の無いお堂にこま犬の頭がまつられ、お唐犬(からいぬ)が転じてお唐猫(からねこ)となった説。お堂自体も無くなってエノキの根だけが残り、お空根子(からねこ)となった説が載る。江戸時代の戯作家石橋庵真酔の作品には「城南の前津、矢場の辺に一物の獣あり(中略)。御空猫と称す」と登場する。愛知の民話を訪ねてから名古屋市中区「おから猫」から

3 春日神社



16世紀初めのころ氏神様として前津小林城の牧与左衛門によって整われ尾張徳川家の崇敬を受ける 現在の建物は昭和36年に再建 この神社ははこま犬がこま鹿になっています。

4 万松寺



1540年織田信秀(信長の父)が織田家の菩提寺として中区丸の内2丁目・3丁目 錦にまたがって建立 1610年名古屋城築城によって現在地大須に移転 境内にあった桜天神は錦2丁目に残る 昭和20年3月12日空襲で消失 万松寺通・新天地通なの度商店街とともに相互依存を図り日本一の大須商店街の一角をなし現在にいたっています。中区役所跡

5 三輪神社





1570年創建 奈良桜井三和町から小林城(現在の矢場町交差点辺り)に移った若狭神長清が故郷の大黒様を祭ったと伝えられている 今年の干支である幸せのうさぎがある 尾張藩の弓道場があり現在の地名のもとになっています 色彩豊かな御朱印も有名です

6 清浄寺
(矢場地蔵)




1532年ごろこの地に小林城があり織田信長の妹と結婚した牧長清(まきながきよ)が住み 仏門に帰依し亡くなった後に廃城に


7	政秀寺		<p>1553年(天文台22年)織田信長が自分の素行不良を嘆いて諫死した平手政秀の菩提寺として小牧山に開山 清州に移転後清州越しで1610年に現在地に 月に一度の座禅会も開催されています</p>
---	-----	--	--


8	若宮八幡社		<p>名古屋総鎮守 文武天皇の時代に那古野庄今市場に創建されたと伝えられております。 901年～923年(延喜年間)に再興し1532年(天文元年)織田信秀が那古野城を攻めた際焼失しましたが、1539年(天文8年)に再建されました。その後、秀吉公より社領二百石の寄進を受け、1610年(慶長15年)家康公が名古屋城築城に際し現在の地に遷座し、武神の神・外敵防護・領内鎮護の神として、武将の厚い信仰を受け、尾張藩二代藩主徳川光友は1664年(寛文4年)に社殿をはじめその他の造営を行い、社僧を廃し例祭の興隆に努め、その後代々の藩主の崇敬篤く、1689年(元禄2年)正月神領百石が寄進され、営繕は明治維新まで藩主により行われました。1877年(明治10年)県社に昇格し、1945年(昭和20年)3月19日空襲により焼失しましたが、氏子崇敬者の熱意により1957年(昭和32年)復旧造営しました。</p>
---	-------	---	---

9	陽秀院 (紙張り地蔵)		<p>別名大須秋葉さん 開山時清州越しで現在地に 地蔵に紙に貼ると願いが叶う</p>
---	----------------	---	--

10	大光院 (明王殿)		<p>1610年(慶長15年)清州越しで現在地に この辺りは遊郭があり賑わっていた成田長親公の菩提寺 小田原城水攻めで秀吉・光成軍に降伏 毎月一回28日には縁日がある。</p>
----	--------------	---	---

11	那古野山古墳		<p>大須にある前方後古墳 江戸時代には那古野山、庚申山（こうしんやま）、明治時代には浪越山と呼ばれていました。富士山観音寺（清寿院）の後園となった際に、那古野山古墳の前方部を壊して庭が造られ、後円部は浪越山としてその一部に取り込まれました。このため、現存する古墳は後円部のみなのです。</p>
----	--------	--	--

12	富士浅間神社		<p>大永6年(1527年)、前津にあった小林城主・牧長清(正室は織田信長の妹)が再建しています。 寛永10年(1633年)、徳川義直(とくがわよしなお/家康の第九子・尾張藩の初代藩主)の室・高源院が改築しています。明治以前には修験道当山派の富士山観音寺(寛文7年に藩命で清寿院と改名)の鎮守社でした。富士山観音寺(清寿院)の広い境内には芝居小屋や見せ物小屋が並んだといい、尾張三名水のひとつ「柳下水」も境内にありました。清寿院は明治5年に廃仏棄釈で廃寺となり富士浅間神社だけ残されています。現存する社殿は、昭和4年築のもの。商売繁盛を願う大須らしく、富士山信仰の神社ながら本殿前には招き狐が鎮座しています。</p>
----	--------	---	--

13	真福寺 (大須観音)		<p>1616年(慶長17年)徳川家康の命によって清州越しのころに岐阜県羽島にあった寺がこの地に移転 戦災により消失昭和45年に再建 尾張33観音1番札所 国宝古事記の写本を所蔵 日本一繁栄する商店街</p>
----	---------------	---	---

14	ランチ		<p>ブラッスリー レ ザンジュ</p>
----	-----	---	-----------------------------

あいちの民話を訪ねて

〇〇〇

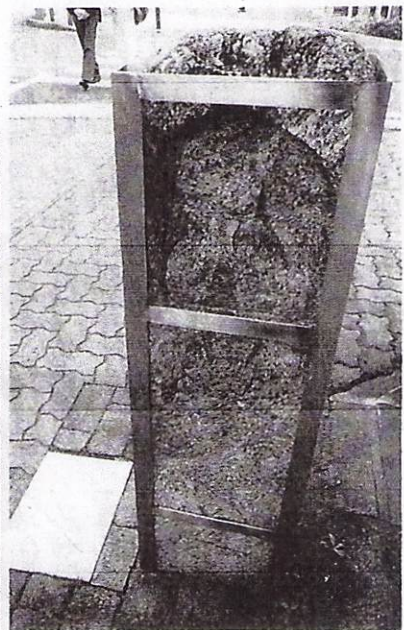
おからねこには謎が多い。江戸後期の地誌「尾張名陽図会」には「神体の無い。お堂にこま犬の頭がまつられ、お唐犬が転じてお唐猫となった説。お堂自体も無くなってエノキの根だけが残り、お空根子となった説が載る。江戸時代の戯作家石橋庵真酔の作品には「城南の前津、矢場の

丸田町 JCT 矢場町 道標 上前津 大須通 地下鉄名城線 地下鉄鶴舞線 名高速 古屋 中区 大直禰子神社 200m



古くは目印 謎多い正体

若宮大通と空港線が交わる名古屋市中区の丸田町交



と記された石標が今も残る。「堀川文化を伝える会」の辻信雄会長(モモ)によると江戸時代には旅人の目印になっていたようだ。明治時代の古地図にも方松寺の南東方向に「オカラネコ」とある。現在の「大直禰子神社」(同区大須4)に近い。三代目の岩田孝根(おからねこ)は「矢場町から移り、おからねこは神社の愛称だったらしい」と話す。「名古屋市史 社寺編」などによると、明治末期には加良根子神社から現在の「大直禰子神社」に改名。猫の神社と勘違いして失踪した猫を祈る飼い主や、死骸を捨てる迷惑もあったそうだ。今はマスクを着けたこま犬がひっそりたたずんでいる。(佐々木香理)

おから猫は美しい猫だった。中国(唐)の立派な猫にちなみ、お唐猫と呼ばれた。だがある日突然、体が牛や馬のように大きくなり、背中に小さな木や草が生えた。気味悪がられ、前津の荒れ果てたほころでひっそり暮らした。耐え切れず大池に飛び込むとしたが、池に映る姿のおぞましさに意識をなくしたほどだ。運命を呪って死を考え、ふと気づいた。お唐猫と言われて得意になっていた尊大さが自分を太らせ、強引な自負心が神様を怒らせたのだ。泣き続けて涙も枯れると、運命を受け入れようと決意した。その時からほころの前から動かなくなつた。雨でも風でも動かない。泰然自若と全てを受け入れた。後におから猫に頼めば願いがかなうとうわさが広まり、人々は前津の地に集まっては「ごぞつて手を合わせよう」になった。おから猫はずつと温和な表情だった。

おからねこ(名古屋市中区)

- ②西側側面に「おからねこ」と記された道標=名古屋市中区の丸田町交差点付近で
- ③上前津駅近くにある大直禰子神社=名古屋市中区大須4で

